

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：心理臨床における思春期 ILAS Seminar :adolescence in clinical psychology			担当者所属 職名・氏名	教育学研究科 准教授 野口 寿一		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	7(7)人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	水5	教室	総合研究2号館地階 / 教育学部 第5演習室(本部構内)		使用言語	日本語	
キーワード	思春期 / 臨床心理学 / カウンセリング / スクールカウンセリング / 子ども						
<b>【授業の概要・目的】</b>							
思春期は、心身の大きな変化が生じ、こころの不調にも見舞われやすい時期である。身体的には第二次性徴が起こり異性への関心が芽生える時期であるし、心理発達においても自意識や他者意識が確立されることの影響は非常に大きい。この時期について、特にカウンセリングや臨床実践の文献を購読し、ディスカッションしながら理解を深めたい。							
<b>【到達目標】</b>							
臨床心理学の観点から思春期について理解する 自身の体験や現代文化の影響も考え合わせ、昨今の思春期の悩みのあり方について考察する力をつける							
<b>【授業計画と内容】</b>							
思春期に関する文献講読とディスカッションを中心に進めます。							
第1回 オリエンテーションと自己紹介							
*特に小学校高学年から高校までで、ハマっていた物語作品についてプレゼンしてもらいます(要準備)							
第2回 グループワーク1							
第3回 グループワーク2							
第4回 グループワーク3							
第5回 文献1							
第6回 文献2							
第7回 文献3							
第8回 文献4							
第9回 文献5							
----- ILASセミナー：心理臨床における思春期(2)へ続く -----							

ILASセミナー：心理臨床における思春期(2)

第10回 文献6

第11回 文献7

第12回 文献8

第13回 文献9

第14回 文献10

第15回 フィードバック

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

授業への参加状況(50%) 小レポート(50%)

**【教科書】**

岩宮恵子『思春期センサー 子どもの感度、大人の感度』(岩波書店,2025)

**【授業外学修(予習・復習)等】**

文献を入手し、各自で事前に読んで、印象的だったポイント、そこから考えたことを言語化しておくこと。ディスカッションの準備のためなので、レポートのように体裁の整ったものでなくても構わない。

初回のみ、自己紹介の一環として、思春期にハマっていた物語作品について5分間でプレゼンしてもらう。小説、漫画、アニメ、映画、ゲームのストーリー、絵本など。フィクションに限らず、自身のこころを打った実在の誰かのライフストーリーなどでも構わない。  
どんな物語で、どういうところが自身の心を打ったのか、その作品を知らない他者に短時間で伝えるように言葉を工夫すること

プレゼン方法は、口頭でもよいし、画像などを見せてもらってもよい。  
(プロジェクターなしにはなるが)PCやタブレットなどでスライド資料を提示してもらっても構わない。

**【その他(オフィスアワー等)】**

メールで連絡してアポイントを取ること

**【主要授業科目(学部・学科名)】**